

KOMAZAWA 駒澤大学 3×0 城西大学 SAI

コンスタントに試合に出場している小野里。「次も無失点で勝つ」と意気込みを語った【下】最上は積極的にサイド攻撃をし、かけさらにはゴールを決めその存在をアピールした

(撮影・野澤俊介)



サイド攻撃爆発！ 城西大制し 1回戦突破！！

初戦の難しさと物語る一戦

30度を上回る炎天下の中、総理大臣杯出場をかけた関東大学選手権が幕を開けた。

リーグ前期を終えて戦術を模索していた駒大。この日は「サイドからの攻撃を意識してやっ」と鈴木祐が言うように、リーグ戦ではロングボール主体であった攻撃からサイド攻撃に重点をおくスタイルで臨んだ。その策が功を奏し、前半早々からチャンスが生まれる。8分、右サイドを突破した小林竜のクロスボールを赤嶺が左足で押し込み先制。勢いをそのままに2分後、CKからのこぼれ球を左サイドで拾い、またしても小林竜の折り返しから今度は最上が追加点を奪う。その後も両翼を担った小林竜と最上を起点とした攻撃を仕掛ける駒大。結局得点には至らなかったものの、危ない場面もなく前半を終えた。

後半に入っても駒大は攻撃の手を休めることなく試合を進めていった。58分、三度小林竜からのアーリークロスから赤嶺がトラップし、落ちていてゴール右隅に流し込み3点目を決める。これが決勝点となり、後半もピンチらしいピンチを招くことなく1回戦突破。

しかし試合を振り返ると、暑さの影響もあっただろうが、格下相手にチャンスも多く作りながらもゴールを割れないというもどかしい場面が目立った。「何の大会でも初戦というものは難しい」という鈴木祐の言葉どおり駒大の戦いぶりは初戦の難しさを物語っていた。「これからは一人一人の粘り、頑張りといった諦めない気持ちが大仕事」。鈴木祐の言う駒大の持ち味が発揮されなければ、負ければそこで終わりというトーナメントを勝ち抜くのは難しいだろう。3位でリーグを折り返した屈辱、そして勝利することの喜びを忘れずに勝ち進んでいくことを欲しい。

(川崎 篤彦)